

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 24 年 1 月 10 日発行

第 32 号

発行人 校長 鈴木史良

世界に羽ばたく深中生

—— 今年最初の全校集会で校長が話したこと ——

生徒の皆さん、正月は楽しく過ごしましたか。今年こそはと、大きな夢をもち、元日に自分の夢や目標をたてた人がたくさんいると思う。こういう節目、節目に自分を振り返り、新たな目標をもつことは大事なことだ。それはどんな人でも、よりよく生きたいという前向きな気持ちを心の中にもっているからだ。

さらに、自分のたてた目標を実現するために、まず〇〇までに、〇〇をやり遂げる、という目標の立て方をした生徒はいるだろうか？ その生徒は私のクオリティー・コントロールの話を聞き、実践しようと意欲をもった生徒だと思う。

今年はさらに一歩踏み込んで、目標やめあての「質」について触れてみたい。

生徒の皆さんは一日、一日成長している。身体が子どもの身体から大人の身体へと変化していく。こういう時期に、食事をしっかりととり、自分の身体を鍛えることで丈夫な骨格ができ、内臓が整い、筋力がついていく。何時間勉強しても、集中力が切れない身体ができてくる。

同じように、子どもの自分から、大人の自分が変わっていくためには、しっかり学ぶことが大切だ。でも、学ぶことが大切なことくらい、わざわざ言われなくても君たちは十分よく知っている。「毎日2時間は勉強する。」「授業に集中し、忘れ物をなくす。」「部活と勉強を両立させる。」等々、君たち一人一人が思い浮かべることだろう。どれも大切なことだ。しかし、これだけでは目標の質が高まらない。

では、どうすれば目標の質が高まるのか？ それには、“何のために学ぶのか”という目的意識をしっかりとつことが大切である。このように言われると、高校に入学するため、とか将来の就職のため、あるいは良い成績をとるために学ぶと考える生徒も多いだろう。それでいいという人もいる。しかし、自分の要求実現の願望だけであっては意味がないと私は考える。

“何のために学ぶのか”が本当の意味をもつようになるのは、今自分たちが生きている社会について考えているかどうかだ。つまり、これからの社会で日本の、世界の子どもたちに必要なのは、『わたしたちが今、どんな社会を生きているのか』という視点をもつことだと思うのである。



狭い範囲では家庭や学校など日常生活に関わる問題から、広い範囲では地球規模の問題まで目を大きく見開いてみる。すると、様々な現実問題が見えてくる。日本の震災被害ばかりではない。人類の人口は昨年10月に70億人を突破し、増々急激に増加している。地球の温暖化問題は南極、北極の氷を溶かし、異常気象の原因ともなっている。貧困と飢餓、経済格差による争い、巨大化した自然災害等の地球規模の問題に直面し、地球の未来は明るいとは言えない。いや、むしろ暗い。これらをずっと他人事として見過ごすことができるだろうか。

私たちの地球をこれ以上不愉快な場所にしないためにも、これから子どもたちに求められるのは、『世界を変えていく力』だと考える。この言葉を聞いて、世界を変えていく力なんて自分にあるわけない、と思った人が多いかもしれない。今すぐに世界を変える力をもつことはできないけれども、それにつながる力を養うことは君たちにもできる。次の3つが中学生の時期に身につけてほしい力だ。

- ・ 問題に気づき、それを解決しようと、学び努力する力
- ・ 人としてだれからも信頼され、力を合わせていけるような豊かな心
- ・ 健康で丈夫な体

私のこれまでの海外経験から、世界に出て信頼されるようになるには、自分の郷土をよく知り、それを自分の言葉で語ることができる人になることだ。1年生に導入した劇「いのちの用水」は、古い世界の昔話ではない。深中生が世界に羽ばたく第一歩と考えている。自分が学んだことを伝え合い、互いに学び合い、それを自分たちの生き方に生かして、世界の人々と協力して、よりよい未来を創るという力を育成したい。そのため、これまでの学校教育目標を、平成24年度から次のように改めることにした。

・ 旧 『豊かな心を持ち、自立できる生徒』



・ 新 『豊かな学びで世界に羽ばたく生徒』

これが深良中における志をもった「有徳の人」づくりであり、「生きる力」の育成につながると考える。日本人は勤勉さや助け合いなど、伝統的に良いところをもっている。これらのよさを世界で発揮し、世界を変えていくことができる人物が深良中の卒業生からたくさん生まれてほしいと願っている。

